



## 新しい生活様式の中で

県南教育事務所長 板橋 竜男

「今の3年生は部活動の大会もできない、そして希望する就職もできない、それではあまりにもかわいそうです。なんとか子どもたちの夢を叶えてあげてください。」

5月中旬、今年度の就職解禁を前に、新規高校卒業者の就職要請で、白河実業高の富樫校長先生が、白河商工会議所にて各企業へお願いした時の言葉である。

自分も何か話そうと思っていたが、現場の校長先生の子どもたちを思う切実な気持ちの後では何も言えず「よろしくお願いします。」としか言えなかった。

7月上旬時点で、緊急事態宣言は解除されているものの、COVID-19の影響は教育活動だけでなく、普段の生活にも非常に大きいものがある。特に相次ぐ行事の中止や延期、そしてこの経済状況の悪化により、これからの教育はどうなっていくか不安が付きにくい。

そんな中でも、学校が再開し、各学校とも「新しい生活様式」として、玄関先にアルコール消毒用の机を置いたり、教室の棚を移動して机の間隔を離したりしている。

ある県立学校の校長先生は、この機会に多忙化解消のための教育活動の見直しを行い、校務分掌をチェックして組織をスリム化した。

大変な中でも、このようにピンチをチャンスに変えようと努力している姿には、本当に頭が下がる。そして何より学校に、教室に活気が戻ってきたようだとうれしそうに話す姿が印象的であった。

あの震災の時も、ただ、教室で子どもと先生が授業をしている当たり前のように涙した校長先生がいたが、まさしく

くそんな気持ちだろうと思う。

しかし、いくつかの課題も見えてきた。

休校期間中にプリントを配布したが、ほとんどできなかった子どもたちがいる。

ある小学校の低学年は落ち着かない様子で学校生活を送っている。4～5月という学校に慣れるはずの時期での休校で集団になじめなくなった子どもたちがいる。

生活習慣が変化し、肥満傾向にある子どももいる。その反面、黙ったままの給食で残菜が増えた学校もある。

プリントができなかったのは内容が理解できなかったのだろうか、基礎的読解力の問題なのだろうか。幼児教育で遊びから培った主体性などを、小学校での学びの楽しさにつなげていけたのだろうか。それとも単に生徒指導の問題なのだろうか。そして、学校生活でのコミュニケーション不足は、子どもたちの心をどのように変えるのだろうか。

ICTの活用が進み、今後、休校になったとしても、オンラインの学習ができるように準備されていくであろう。そんな中、学校の存在意義が問われている。

子どもの主体性を育むには、また、「聴く」「話す」を含めた言語活動は……。

たとえICTが十分に活用されるようになったとしても、やっぱり学校で、先生がいて、子どもたち同士で授業を行うことが、主体性や言語を育み学力を向上させていく、そんな教育の創造を目指していきたい。

## 学校教育を支える基盤 ～信頼を紡ぐ～

新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業を経て学校再開となり一月あまりが過ぎました。先生方は学校再開に向けた準備を進める中で、子どもの姿のない教室やグラウンドを見て、教師としての自分の存在と使命を見つめ直す機会になったことと思います。学校は子どもの未来を託されています。今年度も教職員一人ひとりが不祥事を起こさない決意を新たにもち、同僚性を生かし学校単位で実効性ある取組を推進していきましょう。

昨年度、県南域内では交通加害事故が6件発生しました。主な事故発生要因は運転中の考え事や気の緩み、思い込みです。発生場所は交差点、丁字路から本線への合流地点、駐車場内であることが特徴です。ここでコンプライアンスが教育現場で問題となる2つのケースを確認します。1つ目は教員による法令違反行為（体罰・飲酒運転・セクハラ等）、2つ目は指導において不適切な対応をしてしまう場合（学校におけるけがが発生時の対応、児童生徒への侮蔑的

な言動など）です。県南教育事務所では研修会、学校訪問の機会を通してコンプライアンスに関わるメッセージを発信し指導助言を行ってまいります。各校においては事件・事故事例について日頃から当事者意識を持ち、「信頼される学校づくりを職場の力で」を活用し倫理観を養う取組を継続してほしいと思います。大切なことは、職場全体でコンプライアンス意識を醸成することです。気軽に相談し合える職場の雰囲気づくりが欠かせません。地域に開かれた教育課程の実施を通して校外の皆さんと交流し、社会常識や外の声を知ることでも有効です。新型コロナウイルスとともに生きていく新しい生活様式の社会においても、学校を支える基盤は、子どもたちや保護者、地域からの揺るぎない信頼です。交通事故、不祥事をなくすことにより信頼を紡いで、生徒・教師・保護者・社会が強い絆を作っていくためにあらゆる努力を積み重ねていくようお願いいたします。

# 夢と希望をはぐくむ県南の教育の推進

～学校教育課関連記事～

## 豊かなこころの育成

道徳教育で「豊かなこころ」とは、例えば、困っている人には優しく声を掛ける、ボランティア活動など人の役に立つことを進んで行い、喜びや感動を伴って植物や動物を育てる、自分の成長を感じ生きていることを素直に喜ぶ、美しいものを美しいと感じることができる、他者との共生や異なるものへの寛容さをもつなどの感性及びそれらを大切にすることです。これらの心を道徳科の授業を要として育成できるよう、主題設定や教材配列等を工夫した指導計画の改善に関する研修を充実させ、多様な思いや考えを引き出す授業の具現化に向けた指導助言に努めてまいります。

また、児童生徒が「豊かなこころ」を育成する土台となる安心・安全な学校生活を送るために、スクールカウンセラー(以下SC)、スクールソーシャルワーカーを配置し、教育相談体制を整備しているところです。SCが配置されていない小学校においても、中学校区のSCを活用することが可能です。ぜひ、ご活用ください。また、スクールカウンセラースーパーバイザーや生徒指導アドバイザーを派遣し、教職員等へ支援できる事業も実施しています。ご不明な点があればお問い合わせください。

## 授業改善にかける思い

スタートアップ訪問に始まり、要請訪問、キラリ校支援訪問など、毎日のように各学校で授業を参観し、先生方とともに授業改善に向けた議論をさせていただいています。新型コロナウイルスの影響で、訪問要請が減るのではないかと懸念もありましたが、昨年度を上回る要請をいただき、学校そして先生方の熱意が伝わってまいります。また、事後研究会の持ち方も各学校で工夫を凝らし、若手、中堅、ベテランそれぞれの先生方が本気で議論する姿を拝見いたしました。改めて、「教員同士の学び合い」が充実してきていることを実感しております。

一方、今年度は全国学力・学習状況調査とふくしま学力調査が中止となりました。調査から客観的なデータを得ることはできませんが、単元テストや定期テストなどの結果分析から児童生徒の強みと弱みを明確にし、授業の改善に生かしてほしいと思います。また、7月中旬には全国学力・学習状況調査問題と解説資料が各学校に送付されましたので、全員で問題を解くなどして、特に重視される点や身につけるべき力等を示すメッセージを受け止め、授業改善につなげてほしいと思います。先生方一人一人の授業改善にかける思いは、必ず児童生徒の学力向上につながります。

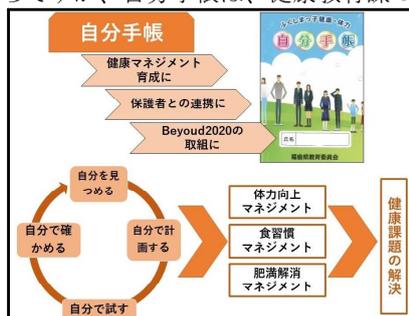
## 健康課題解決に向けた基盤づくり

「健康課題の克服に向けて『ふくしまには、これがあろう！』積み重ねた実践をこの時に。」が健康教育課から送付されました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で体力低下が心配される中、震災以降の積み重ねを活かしていくときです。特に、児童生徒が活用するツールとして「自分手帳」が挙げられています。

今年度の「学校体育・保健・安全・食育に関する調査」、「自分手帳の活用状況」は、小学校37校中27校で、約73%、中学校18校中17校で、約94%でした。

さて、自分手帳は、児童生徒が使いたいときに使える状態になっているのでしょうか？また、「保護者との連携」という点で、効果的に活用されているのでしょうか？

管理が難しいところですが、自分手帳は、健康教育課のHPからダウンロードすることができます。「健康な体づくりの目標」などをプリントアウトし、健康マネジメント力の育成のために、活用してみてはいかがでしょうか。



## 特別支援教育の推進

特別支援教育の充実に向けて、早期からの支援体制整備や個別の教育支援計画および個別の指導計画の作成・活用等を行っていただいております。これからも子ども一人一人が必要な支援を継続して受けながら自分の良さを生かして成長ができるように、校内の体制整備や個別の教育支援計画を活用した引継ぎ等の充実に向けて取り組んでいきたいと思っております。

また、「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進に向けて、交流及び共同学習がとても重要になりますので、こちらの充実も図っていきたく思っております。

事務所としましては要請訪問や特別支援教育訪問等とおして支援してまいります。また、切れ目のない支援体制整備事業として、特別支援学校のセンター的機能を活用した相談・研修支援も行いますのでご活用ください。

県南域内には知的障がい特別支援学校しかありませんが、障がい種や相談・研修内容に応じて、視覚、聴覚、肢体不自由の特別支援学校にも相談・研修支援の依頼ができますので、各市町村教育委員会または県南教育事務所までお問い合わせください。特別支援教育課、特別支援教育センター、特別支援学校と連携を図りながら、各市町村や子ども園、幼稚園、小・中学校、高等学校等の特別支援教育推進につながる支援を心がけていきます。

# 家庭・地域の教育力向上のために ～「家庭教育支援プログラム」の積極的な活用を～

6月1日(月)に、福島県地域家庭教育推進協議会が開催されました。この協議会は、県内の学識経験者、PTA、学校、一般企業、地域の関係支援団体等の専門家及び行政関係者等で構成され、県内における家庭教育の推進や地域教育力の再生に向け、総合的に協議することを目的としています。

協議会では、「親の自己有用感を高める家庭教育支援のあり方」について様々な意見が交換されました。

- 在宅勤務が増え、父親が子どもに関わる時間が増えた。
- 子どもたちの頑張り、親の大変さを認めることが大事。
- 親がSOSを出せる場を地域の中につくる。
- 親の自己有用感を高める講演会の実施。
- ワークショップ形式など、繋がりを持てる場を設けることで、親の自己有用感をつくることに繋がる。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校の一斉臨時休業が行われ、家庭で過ごす時間が増えたことにより、親子間のストレスやトラブルが増加しています。

子どもが安心できる居場所としての家庭を守るために、様々な立場から家庭の教育力向上にアプローチしていく必要があると考えます。

当事務所では、家庭教育支援のために右のチラシにある「家庭教育支援プログラム」を行っております。

県南教育事務所のHPに掲載してあります。ぜひ、ご利用いただきたいと思います。



子どもをほくむ地域実践プロジェクト  
**家庭教育支援プログラム**

幼稚園や小・中学校、子ども会等のPTA行事、教育講演会、学年行事、親子レク等を行う際に、講師を誰にお願いしようか困った経験はございませんか?

PTA行事や家庭教育研修会などの講師を紹介します!

**親子の体験活動**

- 親子で遊ぶ 心のケア教室 (ハルノアトものづくり・音遊びなど) 【明日親子も自立の里】
- 親子で体験 ニューススポーツ教室 (加齢・年齢・ボールなど) 【各町村スポーツ推進員・県キッズボール連盟】
- 親子で楽しむ 読み聞かせ教室 (語り読み聞かせなど) 【読み聞かせサークル】
- 親子でふれあう 体験教室 (自然体験 キャンプ/レク/エーション教室など) 【国立公園青少年自然の家・福島県レク/エーション協会】

**親の学び講座** 【支援団体】

- 非行防止の子育て法 【白河・楡会警察署】
- 親子で学ぶ防犯教室 【白河・楡会警察署】
- 親子で学ぶ情報モラル教室 【白河・楡会警察署】
- 子どもと向き合うために 【家庭教育インストラクター】
- 子どもの心を引き出す会話術 【読書サークル種々(きらきら)】
- 家庭で実践、食育講座 【福島県栄養士会・管理栄養士】
- お口のために歯科教室 【県南保健福祉事務所】
- 尊重し合える人間関係 ～チートンについて話そう～ 【県南教育事務所2F-4F-5Fホール】
- 子どもの「やる気」を引き出すために 【県南教育事務所】
- PTA行事を楽しくする企画のコツ 【県南教育事務所】

お問い合わせは 県南教育事務所 総務社会教育課 TEL: 0248-23-1666  
【活用のお申し込みは、裏面 FAX : 0248-23-1668 まで】  
【地域家庭教育推進県南ブロック会議】 県南教育事務所 社会教育 検索

## 小 学 校 紹 介

### 「チーム関辺」の一員として

白河市立関辺小学校

白河市立関辺小学校は白河市の南東部に位置し、学区に松尾芭蕉で有名な「白河の関」や、富士山が見える北限の山「関山」があります。9年前まで「はだしの教育」に取り組んでおり、保護者は校舎内外、泥道から雪上まで裸足で過ごした年代です。

全校児童133名。各学年単学級の6学級。学校創立61年目。歴史を刻み老朽化した校旗は60年の記念に新調しました。作って下さったのは、地域の皆様。

各地区長、PTA役員が全戸訪問し寄付のお願いをしたそうです。子どもが在籍していないお宅も、「地域の学校を応援したい」と協力して下さったとのこと。

地域の応援団、「登下校の見守り隊」は常時10数名が黄色い旗を片手に児童の安全を守ってくれます。たくさん目の見守られ、素直で元気な子どもたちは勉強にスポーツに思いっきり打ち込んでいます。

保護者や地域の期待・想いを受けとめ教職員一同「チーム関辺」の一員として「地域の宝」を育てていきます。



### 地域の方に支えられて

鮫川村立鮫川小学校

平成15年4月に渡瀬・富田・西野・西山の4つの小学校と統合し、さらに平成30年4月には青生野小学校と統合したことにより、村内で唯一の小学校となって3年目を迎えました。「かしこく やさしく たくましい子ども」の育成を目指し、148名の子どもたちが元気に明るく学校生活を送っています。豊かな自然に囲まれ、地域の方の協力によりたくさんの体験活動を教育活動に取り入れています。その中からいくつか紹介します。実際に川に入っの水生生物調査では、「鮫川」にはきれいな水が流れていることを肌で感じるすることができます。また、学校田の生き物調査では、準絶滅危惧種のコオイムシを発見して、村内には昔ながらの環境が未だに残っていることを実感することができます。冬には、村で300年の歴史がある鮫川和紙の紙すき体験を行い、先人の知恵や工夫、苦勞などに想いを馳せることができます。

健やかな子どもたちの成長のため、これからも地域の方との交流を大切にしてい学校であり続けたいです。



## 新任の先生方から



### 再認識

西郷村立西郷第二中学校  
校長 櫻田 渉

新任校長として赴任して3ヶ月、高校からの異動で戸惑うことばかりですが、明るい子どもたちと笑いの絶えない職員、献身的な地域の方々に支えられて楽しく業務をこなしています。4月から約2ヶ月をかけて3年生の子どもたち全員と面談しました。子どもたちは学校が大好きです。新型コロナの影響にも負けず、前向きに明るく学校生活を送る子どもたちに叱咤激励されている感じがして、学校が担う責任の重さを改めて認識しました。職員と力を合わせながら、子どもたちや地域からさらに愛される学校づくりを目指していきたいと思います。



### 鮫川の山峡で

福島県立修明高等学校鮫川校  
教頭 佐藤 孝則

鮫川村の山峡に佇む鶺鴒色の校舎。修明高校鮫川校は、地域の方々に惜しまれながら、令和3年度をもって閉校となります。その節目の時に第21代分校長を拝命し、職責の重さを改めて感じています。

今年度募集停止となり、全校生徒34名となりましたが、純粋な生徒たちの笑顔に勇気づけられ、日々やりがいを感じています。2年という限られた時間ですが、これまで地域の方々と共に築いてきた伝統を受け継ぎ、校長先生の御指導の下、職員一丸となって最後の卒業生を送り出したいと思います。



### 新任の抱負

福島県立光南高等学校  
教諭 橋本 奏葉

光南高校に着任して3ヶ月が過ぎました。毎日の授業、部活動、校務分掌、そして長い休校を経て待ちに待った生徒との再会など、日々新鮮な気持ちで取り組みました。今思い返すとその一つ一つが一大イベントだったと感じます。

本校は単位制の総合学科で選択科目は多岐に渡り、授業と部活動が連携した教科もあり、一日を通して生徒の生き生きとした姿が日々見られます。そんな生徒達の世界をいかに広げるかは教師にかかっていると感じます。その責務を深く自覚し、生涯学び己を高め、生徒と共に成長できる教師になりたいと思います。



### 沃野乃学舎

白河市立五箇小学校  
校長 大倉 幸子

新任校長として学校だよりの第1号を発行すべく、タイトルについてあれこれ思いを巡らせている時に、ふと大谷五花村作詞、海沼實作曲の『五箇小学校校歌』が目にとまりました。1番の歌詞に「沃野のはるか拓けたる～」という一節があります。よく肥えた土地「沃野」を有する五箇地区。これは作物だけでなく人づくりにもその土壌風土が良く作用しているのだと考えました。地域からの預かりもの子どもたちを正しく導く学舎として在るのが『五箇の小学校』であるべきと私は考え、学校だよりの名前を『沃野乃学舎』にいたしました。



### 158名の子どもたちのために

泉崎村立泉崎第二小学校  
教頭 仁科 恵子

4月1日、着任後の私の机上の名札に書いてあったメッセージ。「158名の子どもたちのために、力を合わせてがんばりましょう。」このメッセージを毎日目にし、心の励みにしながら日々過ごしています。

教頭として子どもたちに、先生方に、地域の方々に何ができるか、日々試行錯誤しながら取り組んでいます。その日々の生活を送る中で、必ず思い浮かぶのは今までお世話になった校長先生や教頭先生の姿です。その先生方の背中を追い続け、教頭として日々成長していけるよう、これからもがんばっていききたいと思います。



### 積み重ね

白河市立大信中学校  
教諭 大堀 綾乃

先日、授業後に生徒から「今日の授業わかりやすかったです。」と言われたことがありました。初任者として大信中に着任して3ヶ月、日々教えることの難しさを痛感している私にとって何より嬉しい言葉でした。授業の中で生徒の「わかった!」という表情を引き出すためにも、教材研究はもちろん、日々の生活から生徒に寄り添い、一人一人と向き合っていきたいと考えます。

反省ばかりの毎日ではありますが、生徒とともに充実した授業を積み重ねていけるよう努力していきたいと思っています。